

巻頭言

時代が変わっても震災の経験が生きる文化を

公益社団法人 宮城県精神保健福祉協会

会長 高階 憲之

(特定医療法人 松涛会 南浜中央病院 理事長)

2011年3月11日の東日本大震災の発災から12年が経ちました。10年以上の時が経っても、心の中の震災の爪痕は形を変えつつ残っていると思います。

私の記憶に残る最初の自然災害は60年近く前の新潟地震です。1964年6月16日に新潟県の沖合を震源とするM7.5の地震が発生しました。テレビで見た液化化で大きく傾いた高層住宅の映像が印象的でした。宮城県でも震度5を観測し、地震の発生は月曜日の午後1時1分でしたので、小学校低学年であった私は教室で揺れを体験したのだとおもいます。新潟地震と聞くと木造の小学校の教室の中から見ている窓を、何故か地震の揺れよりも思い出します。なお、1964年は最初の東京オリンピックが開催された年でした。

次は、宮城県沖地震です。45年前の1978年6月12日午後5時14分、宮城県沖を震源とするM7.4の地震が発生し、仙台市では震度5の強震を観測しました。当時私は工学部の学生で、大学から自宅に戻り居間でくつろいでいたときに起きました。箆筒が意思のある生き物のようにゴトゴトと歩き出し、電柱が風にそよぐスキのように揺れていました。翌日の青葉山の研究棟では、連結した図書室のスチールの書棚から落下した書籍の片付けをしました。研究室の実験機器が壊れ、片付けが大変だったと後に先輩から聞かされました。ライフラインの中で、電力は速やかに復旧しましたが、仙台市ガスの復旧は遅れました。自宅は、都市ガスの供給エリア外で、LPガスを使っていたので、火を使うのにはさほど不自由をしませんでした。このときの教訓から、実家では供給エリア内になってもLPガスを使用していました。

そして、クリスマスイブの大雪です。1980年の12月24日、前日から降り始めた雪は仙台市では午後6時に25センチの積雪となりました。湿った大雪のために10数基の鉄塔が倒れ、東北電力仙台営業所管内の70%が停電という大停電となりました。ホワイトクリスマスとの思い出です。

また、七夕豪雨もありました。1986年8月6日、仙台市では台風による豪雨で降り始めから400mm以上の降雨を観測し、仙台市の中心部が広範囲に冠水をしました。冠水した道路を車で走らざるを得なかったのですが、車の床の隙間から水が入り込み、フロアマットを洗ってもかび臭さは暫く抜けませんでした。

その後も、地震や豪雨、豪雪といった自然災害は繰り返し起こっています。20年前の2003年7月26日には宮城県北部地震がありました。2011年2月22日ニュージーランドのカンタベリーで大地震が起こり、日本人28名が犠牲となりました。そして東北地方太平洋沖地震による東日本大震災が起こりました。東日本大震災では、私の職場の病院は津波に襲われ、籠城を余儀なくされ、その後1年間の休院となりました。もう12年経ったのかというのが実感で、今でも昨日のように思い出すことがあります。

1995年の阪神・淡路大震災の発生を機に国民の防災意識が高まり、さらに平成時代の中期に各地で地震災害が相次いだことから東日本大震災後に最も高くなりましたが、その後は防災意識が低下しています（内閣府「防災に関する世論調査」）。

2016年には、気象庁震度階級でもっとも大きい震度7を記録する熊本地震が起き、東日本大震災に支援に来られた方が被災しました。被災する事はあまり考えていなかったとのことでした。こころに残っても、自分の身についていなかったのかもしれない。実体験と支援は別の体験だったのかもしれない。私の体験は些細なことですが、災害を離れても行動様式として残っています。

以前は10年一昔といわれました。しかしながら、今は全てがスピード化しており、歳月の流れの速さも同様です。一昔を5年以下と答える人も増加し、中には1年と答える人もいます。12年は遠い過去になり、震

災の記憶は急激に風化しているのでしょうか。地域には過去の被災に基づいた文化が伝承されていることもあります。震災の記憶が薄らいでも、少しでも私たちの文化にとりいれられ身になることが私たちの役割と思います。